

令和5年3月度

ネットパトロール記録

概要（傾向・事例等）

3月度は小学生の投稿に関する報告が4件ありました。2月度にも1件ありました。スマートフォン利用開始年齢の若年化が進んでおり、和歌山県の調査では、小学6年生のスマートフォン保有率は令和4年度調査で30.0%であり、おおよそ3人に1人に近い児童が自分のスマートフォンを持っています。従来から保護者のスマートフォンや家族共用のタブレットなどでインターネットネットを利用する機会は多くあり、同調査では小学6年生がネットで一番時間を使っているのは動画視聴で64.4%です。二番目はオンラインゲームで20.5%、次にSNSで8.5%です。これが中学一年生になると、一番ではあるものの動画視聴が減り44.4%となり、SNSが25.4%と大きく増えて二番目に時間を使っています。オンラインゲームもやや増えて24.2%ですが、三番目です。視聴という受動的な態度から、投稿、発信という主体的な態度も伴うSNS利用が増加するのが、小学校卒業から中学校進学の際で、年度末の時期に小学生が報告対象になったことは偶然かもしれませんが、中学校進学を機に自分のスマートフォンを保有率が急増（中学1年生で83.7%）することとの関連があるのかもしれません。

今月のおねがい

～ SNS への慣れは人それぞれ ～

小学生が自分用のスマートフォンを保有することは特に珍しいことではありません。小学生がスマートフォンを持つ（保護者がスマートフォンを与える）理由として、塾に通い始めたり、スポーツクラブに参加したりするなどで、保護者が子どもと連絡を取りやすくすることが挙げられることが多くあります。

小学生の段階ではSNSの利用状況は家庭や地域により大きく違いがあり、SNSの利用に慣れている同級生に追いつこうとして、投稿ネタとして迷惑行為をしてしまうこともあるようです。

2月度もお伝えしましたが、多くのSNSは小学生の利用を想定していないことを思い返してください。

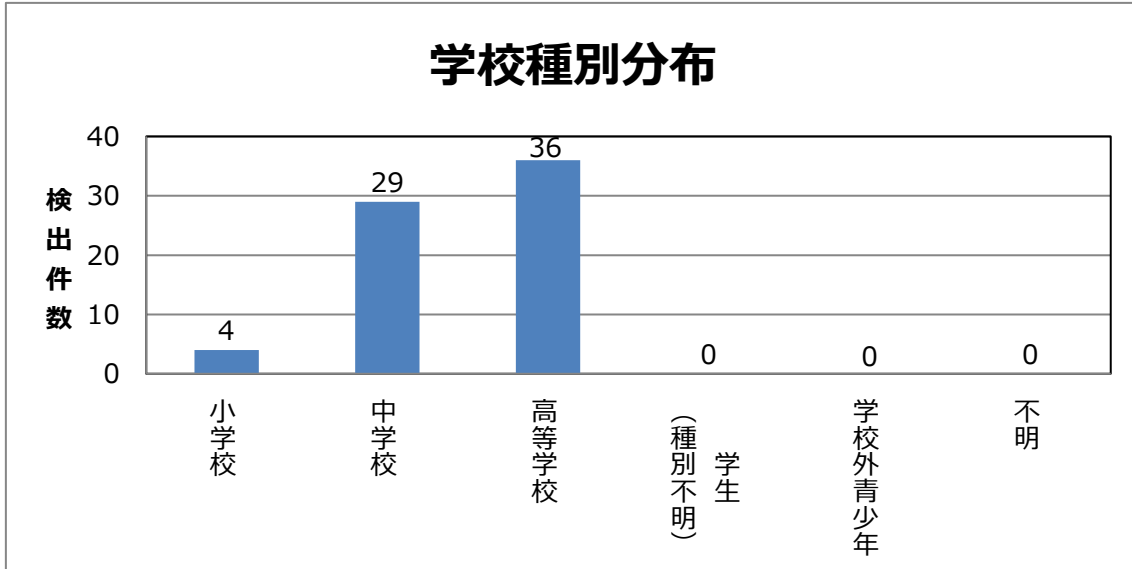


検出件数

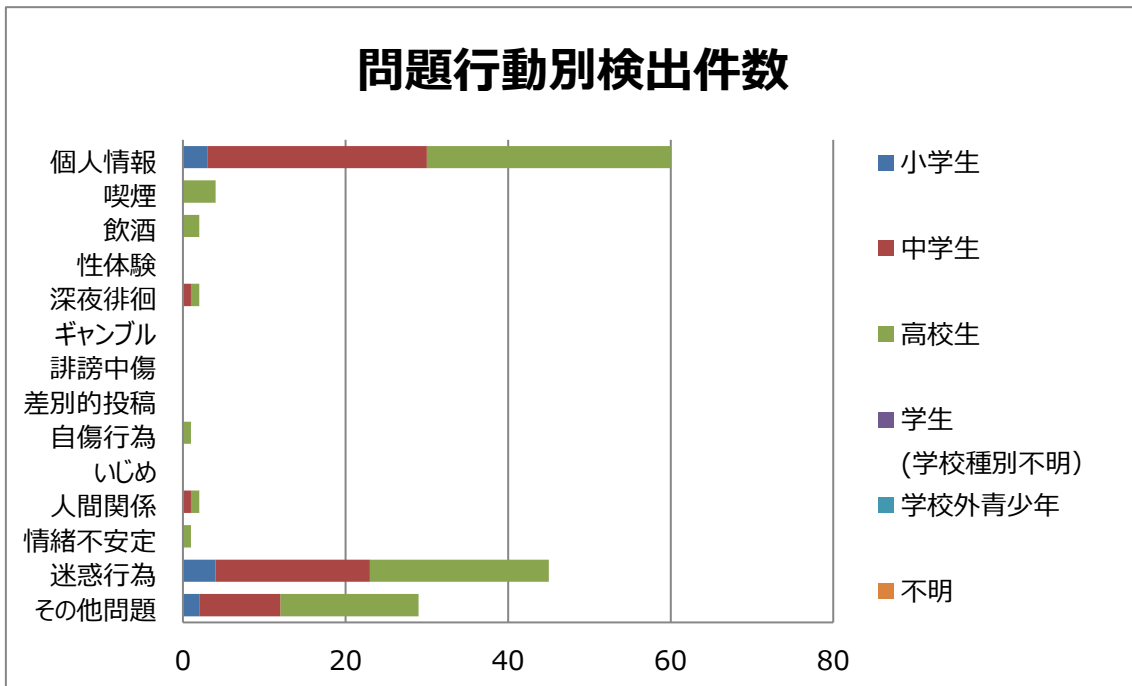
3月の検出件数は69件でした。



学校種別検出件数

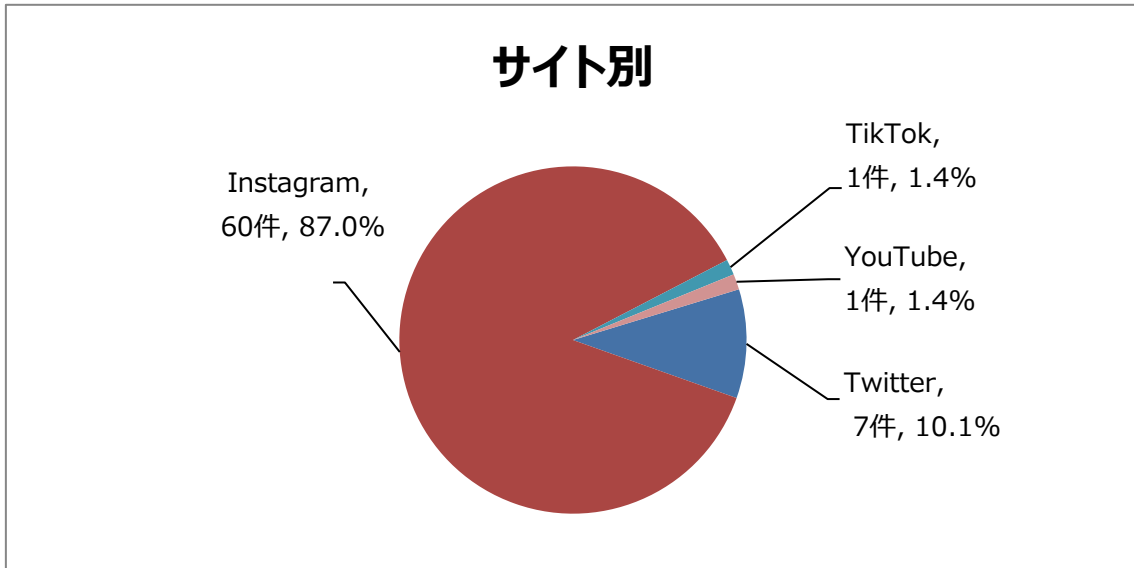


問題行動別検出件数





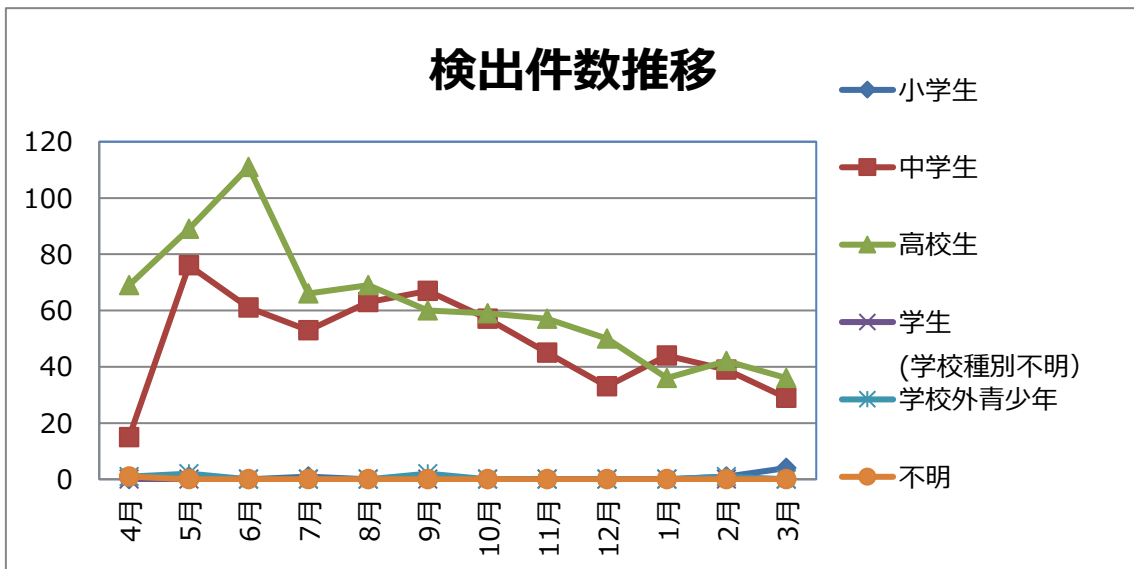
サイト別



※四捨五入のため合計が100%にならないことがあります。



検出数推移



以上